

1. 活動報告（事務局 塩谷 記）

9月22日 大学開放講座の現地研修が実施されました。会長挨拶の後、西原会員から全体の説明、関根先生から水生生物の説明、北村会員から植物の説明及び湿地の希少植物の説明が行われ、最後に原田満会員からビオトープ周辺の案内がありました。受講生から活発な質問があり、会員のみなさんも大変、関根先生も「ひとつ質問に答えられなかった」と苦笑い。

9月28日 宇部西高校より先生と生徒5人が見学に来られました。西高校でも学校ビオトープを作る計画があるそうで、熱心に質問や写真を撮られていました。

9月29日 風倒木を使用しているため、水車のバランスがおかしくなっているため、二俣瀬商興会にバランス板をとりつけてもらいました。

10月4日 総会、出席者16名、総会の日程を会報のみで連絡したために、忘れていた会員がかなりおられました。今後は別紙で案内したいと思います。石井会員をキャップとする植栽計画班（関根・西原・北村・原田満・松原・松本・潮村）の成果が報告され、かなり突っ込んだ話し合いがなされました。竣工式については、植栽が完了した後に実施することも決定されました。ホームページについては若林会員の努力でますます充実し、極力リアルタイムに近い状態で掲載する。新たにビオトープの周辺の項を掲載するなど報告されました。

10月11日 徳島県山川町より17人が大型バスで視察に来られました。「どうして、このビオトープを知りましたか」と質問すると「徳島県庁でパンフレットをもらった」とのこと、みなさんパンフレットのコピーを持っておられました。お土産に山川町の記念品をいただきました。次の全体会議で紹介します。

10月16日 宇部市西岐波の「沢波川の会」の藤田俊美会長より、沢波川にホタルが乱舞するようにしたいが、アドバイスをさせていただく方はいませんかとの問い合わせに、会員である関根雅彦山口大学助教授を紹介。二俣瀬市民センターで藤田会長他2名の方と話し合いが持たれました。沢波川の会ではカワニナを7月に1万5千放流されていました。水質やホタルの性質・植生など2時間にわたり質疑応答がありました。

10月19日 社会福祉施設善和園の職員・園生13人が、稲刈りを前にボランティアで草刈りをしていただきました。ありがとうございました。本当にきれいに草を刈っていただきました。

2. 今後の予定（事務局 塩谷 記）

- 10月20日 午前9時より稲刈り、終了後全体会議
- 22日 12時25分より西宇部小学校90人が見学
- 27日 午後1時より宇部市生涯学習推進大会、つくる会から今井会長、西原会員パネラーとして出席
- 11月10日 午前9時より植栽
- 11日 ファミリーサポートのみなさん40人見学
- 13日 長門市掛淵川水系生活排水浄化対策協議会視察
- 24日 午前9時より植栽

3. ビオトープ関連（一口メモ）

“二俣瀬ビオトープにおけるトンボ相について…続報” (原 隆 記)

- ・9月16日(日) 晴れ。今日は、朝8時から来てみました。夏の時期は朝から気温が高いためトンボも活動しているからです。日中の暑い日などは、あまりトンボは出てきません。草むらや森の中に隠れています。そして、朝早く来るとまだ、夜露が草たちを濡らしてキラキラ光って太陽の光を反射してます。今日確認した、トンボ。オニヤンマ...1、シオカラトンボ...多数(減ってきた)、クロイトトンボ...多数(減ってきた)、ハグロトンボ...3、1、ウスバキトンボ、アオモンイトトンボ...少ない、マユタテアカネ...1 (端斑型)、ショウジョウトンボ...1

*マユタテアカネの雌の翅について説明：雌には無斑の個体と翅端に顕著な褐色帯が発現する個体の2型がある。それぞれの発現頻度は、まだ解析されてない。雄には、この様な個体は発生しない。

- ・9月23日(日) 晴れ。近頃、朝は少し涼しく感じるようになりました。セミの声も聞かなくなりました。さて、どこに行っただけでしょう？ 田んぼの稲穂も緑色に黄味がかかってきて来ました。今日、確認できたトンボ。ハグロトンボ...1、シオカラトンボ...3、ホソミイトトンボ...少ない、オニヤンマ...1、ウスバキトンボ...少ない、ネキトンボ...1、ショウジョウトンボ...1、アオモンイトトンボ...多数、ノシメトンボ...1 (初記録) トンボ科アカネ属のトンボです、ナツアカネ...1、コノシメトンボ...1 (初記録) トンボ科アカネ属のトンボです。全体的にトンボの数が減って来ました。夏のトンボが、消えて行き秋のトンボへと移りつつあります。

*アカトンボは、よく木の先に止っているため注意して観察して下さい。

- ・9月24日(月) 晴れ。今日も、秋晴れのとてもいい天気です。空も澄み切ってます。今日は、朝から宇部市内トンボの観察をしてきてから、ビオトープに来ました。今日は、子供連れの家族が見られます。とてもいい、風景です。水車が、カタカタ言ってます。今日、確認できたトンボ。ギンヤンマ...1、ハグロトンボ...1、シオカラトンボ...3、1 (産卵していた)

ホソミイトトンボ...3、ウスバキトンボ...少ない、アオモンイトトンボ...5・3（交尾中1ペア）ネキトンボ...1（溜め池の木の先で縄張り中）コノシメトンボ...2（溜め池の木の先で縄張り中）ナツアカネ...3、ノシメトンボ...1

*ピオトープ内のあぜ道に沢山、ハンミョウがいます。ピョンピョンと近寄ると飛んで逃げていきます。歯がとても鋭く、体は綺麗です。

- 9月30日(日)今日は、朝からあいにくの雨であまり外に出たくないのですが、やはり雨の日の観察も重要でさっそく、雨カッパを着て長靴を履いてカメラとネットを持って(これらは、いつも持っています)出掛けました。雨と気温が低いでトンボの姿は少し見られただけでした。トンボは、気温が15以下位になると動きが悪くなり、雨が降ると更に悪くなります。では、どこにいるかと言うと池や湿地内の草むらの中や周辺の森の中です。探し出すのはかなり難しいです。ただし、小さいイトトンボの中で、そんな中でも池の中を飛び回っている個体も見られます。今日のトンボ。アジアイトトンボ...1(初記録)...ハスの池、マユタテアカネ...4(周辺の草むらの中)、アオモンイトトンボ...2・1(止水の池)、クロイトトンボ...1・1(交尾中)...久しぶりに見た

*今日は、雨のためか木の先に止っているアカトンボもいませんでした。

- 10月13日(土)晴れ。久しぶりに、来ました。この前の連休は、仕事で来れませんでした。やって来ると田んぼの稲が刈られていました。ピオトープの稲刈りが楽しみです。今日のトンボ。ウスバキトンボ...1、マユタテアカネ...3・1、ナツアカネ...1・3、アキアカネ...1・5、ホソミイトトンボ...1(越冬型)、キトンボ...2(初記録)...止水の池、今日は、キトンボが見られました。アカトンボです。翅がオレンジ色していて綺麗なアカトンボです。かなり敏捷で木の先に止って縄張りを張っているところが見られますが、池の上を飛んでいる時は、素早く時々ホバリングします。比較的珍しく個体数は、あまり多くありません。水の綺麗な池などに生息します。寒さには、かなり強いらしく12月になっても少ないですが見られる事があります。記録では、1月上旬の暖かい日に雪の上に止っているのが確認されてます。ただし、越冬は、出来ません。

4. ピオトープ関連 (ピオトープ近辺の案内)

“いぼ神様” (車地 吉富 壮介 記)

先述「えんこ塚」の南70メートル登った、山の中。太さ50センチ高さ1メートルのミカゲ石が立っている。その石をなで、いぼをなでると、十日も待たずに跡カタもなく...と。明治、大正の時代、手や足に“いぼ”を造っている人が多く、とし頃になると、つい気になる“いぼ”。「朝早く拝みに行く」と霊験あらたかとの言い伝え。遠くは船木、美祢からのお参りもあったとか。古い人が知っているだけで、今は訪れる人もない。訪れる道もない。別称“石仏(いしぼとけ)”とも言う。一つの石を、神とあがめたり、仏と呼んだり、昔の人は忙しいことで...

5. 会員の声

“二俣瀬ピオトープ周辺の秋” (石井 隆 記)

二俣瀬の里山に今年の夏も若い命が育まれた。須賀河内川の支流沿いを散策していると反対側斜面で「トントントン」という聞き慣れない音がする。50センチ大のものが斜面を登っては振り向く。ウリボウだ。灰色の地に白い線のトレードマークが見える。初対面同士の感激の一瞬はあっという間に過ぎてしまった。しばらく行くと小さなヘビを踏みつけそうになった。30センチ大で胴体もスリム、この夏生まれの子ヘビだが色は一人前、ヤマカガシ特有の黒、黄褐、赤の斑がとても鮮やかだ。用水池に上り着いたところで汗の引くのを待っていると、何かが目の前をよぎった。ホタルガがクモの糸に捕まった。間髪を入れずジョロウグモが飛んできて、獲物にとどめを刺した。何時もジッとしている日頃の姿から、この瞬発力は想像しにくい。アキアカネにマユタテアカネが歩いて行く前の小道からスッと飛び立ち、また直ぐに停まる場所を見つける。突然、絡まったものが足下に落ちてきた。何が起こったか分からない内にトンボの番がパッと飛びたった。ツマグロヒョウモン、イチモンジチョウにキアゲハも舞っている。昔、お百姓さんが人里離れた用水池のそばに植えたと思われるヤマガキに、小さな、まるい実が色づき始めた。ウルシの葉にも紅がさしてきた。ヨメナ、ミゾソバ、アキノタムラソウも柔らかい陽射しの中で、揺れている。秋景色に染まり始めた二俣瀬の里山で、生きとし生けるモノの、自然の営みが静かに演じられている。次の十五夜には、ピオトープで虫の音を聞きながら秋の月を愛でたい。(10月7日)

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

11月11日にファミリーサポートの地域交流会を北部にて行う事になっており、ピオトープで散策、昼食を予定しておりますので下見に来ました。秋の景色は又変わった感じが楽しめるかと思えます。思った事の一つにトイレのない事が心配です。女性のグループですので、さてどうしましょう? (9月15日 木田 平佐)

親子3人で、自然とふれあえると思い来てみました。2才の娘も、喜んでいました。イトトンボを久しぶりに見ることができました。約9年前に、二俣瀬小の2年生の子どもたちをつれてきて、泳いだり遊んだりしたことが、なつかしく感じられました。当時の様子とはかわっていましたが、理科の授業でつれて来るのに最高な場所です!いろいろな季節に、来てみたくなりました。水車の音と、水の流れる音しか聞こえないのが、また いいですね。時間がたてば、もっと深みのあるピオトープになるのでは...と思いました。ここから車で10分の所に住んでいるので、ラッキーです。(9月15日 山本文彦)

本当にゆったりとした時が流れているという感じです!! 水蓮の花が2つ、自然の中の花ってきれいです。今からゆっくりと散歩します。(9月16日 宇部市ときわ町1丁目1-16 有田フデエ、坂本純子、坂本邦彦)

広報でその存在を知りました。が、場所がよく分からなかった為、今日初めて実物を拝見しました。思っていたよりも敷地が広く、生物、植物と触れあうには充分でしょう。“ピオトープ”という言葉自体が一般的な馴染みがうすい為、私自身どうしても

のなのかまだはっきり理解していません。今後、いろんなイベント、広報誌等を通じて紹介されてはどうでしょうか。(9月20日 宇部市 岡田)

毎日が忙しく過ぎ、心にも体にもつかれがたまり、次のステップが、中々、思うようにならない 40才後半の夫婦で、私、妻の方が、主人をさそってきました。脳みその洗たくです。いろいろ、人間は、考え、造るけど、動植物はえらいです。ただそこに、生きるために生命を誕生させ、育っていきます。うっ、負けそう、でもなんとか、がんばらなくちゃ。じゃーまたね。(9月23日 47才 女)

今日も秋ばれの気持ちのいい日でした。昼間は芝中ふとうへ南極観測船「しらせ」を見に行き、人の多さにびっくり でもゆっくり見てまわれました。夕方 5:00 ですが 日がかげり 田んぼにさす光が1分ごとにかわります。太陽の差している暖かそうな稲穂 陰になりこれから夜をむかえる稲穂はじっと静かに立ってます。時間がゆっくり過ぎ さっきまで おもちゃやさんに寄ってーっていった子ども達も大さわぎ。カエル一匹でそんなに盛りあがるのか 日頃 ゲームだの クラブなどで本当の自然の中に身をおくことが すくなくなってきたせいでしょ。でも 私の家のまわりにも まだ自然はあると思ってますが…。また今度ゆっくり お弁当もってきたいです。(9月23日 うべし中山 浅井隆志、小百合、伊藤雅也)

P.S. 原隆様 よく足をはこばれている記録をよませていただきました。頑張ってくださいね。また楽しみにしています。

岡山から来ました。ここはカヤツリグサの仲間が多くて植生が多様でたのしかったです。(9月24日 でみお)

歩いていると昔の子供時代を思い出します。懐かしく思います。今ではこんな環境に出くわすこともありません。子供達のために永く残してください。(日付・記載者は不明)

自然がいっぱいでいい所でした。看板が余り目立たないので大きくして下さい。(入口案内) (10月7日)

二度目です。一度目は二俣瀬小学校の運動会が終って立ち寄りしました。東屋にすわってゆっくり自然にひたる事が出来ました。(小雨でしたので) 自然と共生するのは大変だと思いますが、チームワークでがんばって下さい。(10月8日 かーくん、つつちゃんのババより)

ホームページで知りました。初めて来ました。静かさの中、水車の音が、コトコトとまねいてくれているようです。また、訪れます。ボランティアのみなさん、ごくろうさまです。(10月8日)

徳島県麻植郡山川町で元気やまかわネットワークといます。町内を流れるほたる川の清そうや公園づくりなどまちづくりに取り組んでいます。今回、公園づくりの視察研修旅行で17名参加で、里山ピオトープ二俣瀬にきました。私たちが頭の中でえがいていたピオトープ公園のさいげんをみているみたいで、おどろき、うれしく思いました。ぜひ、この公園を大切にしてください。(10月11日)

娘と3人で来ました。以前からうわさに聞いていました。意外に広いのでビックリしました。水生生物が少し、少なかったので残念でした。午後からだったので早朝だったら少し多くの昆虫に出合えたかも!! が又、伺います。(10月13日)

7. 大学開放講座参加者へのアンケートより

(1)このピオトープを見て、どう思われましたか。

忘れてたいろいろな物を思い出させてくれました。ありがとう。

まだ自然で今から変っていくのだろうと思います。

大変感激しました。関係者の方、ご苦労様です。また来たいです。入り口の水車がとても新鮮でした。全国に広がれば良いと思います。

人の手を加えることでピオトープを維持、充実させることが出来るのだなと良くわかりました。多種類の動植物がいることが案内人の方の説明でわかりました。

昔日野山を走り廻って育った子供の頃を回想しました。在京の孫を一度連れて自然観察をさせたいと思います。

すばらしいなあと思いました。将来子供ができたら、連れてきたいと思います。

私の子供の頃は家の周りにこのような地域がたくさん有り、現在二俣瀬地域においても人間手を入れなければ自然の生物が成育出来ない状況に驚きました。

便所の設置の考えは？

(2)改善するところはありますか。(10月から木の植栽が始まります)

ぼちぼちされたらと思います。

草木その他の説明看板があればいいなと思います。

回りの景かんと調和をこわさないように。

植物名を一度には覚えられませんが、主なものに名札があると有難いと思います。

(3)このピオトープ周辺の整備計画がありますが、どういう整備が望ましいですか。(たとえば遊歩道等)

自転車が入れないような遊歩道と自転車用ベンチが何ヶ所かあれば。

遊歩道で、滝への案内ほしいです。あと何m、何分とか。

滝があると聞きました。その道しるべがあると良いと思う。マムシの知識がない人もいるので情報を。

このままでよいと思います。他の人工的なものはいらなと思います。(トイレとか) スタッフの皆さんへどうもありがとうございました。

極力自然の状態を維持した整備をお願いします。

8. 会よりの連絡事項

宇部興産社内誌（ゆーびーいー）10月号および山口農林統計協会の（AFF情報やまぐち）2001第5号（9月1日発行）に里山ピオトープ二俣瀬の記事が掲載されました。

9. 編集後記

早いもので会報を発行し始めてから、もう半年。やっと軌道に乗ってきた。しかし書く人が進んで出てこない種切れとなつて、続けていくことは難しい。何か書いてくださいとお願いしても、何を書くん！どのくらい書くん！と言われてしまう。何でも良いですよ、感じた事や思っている事を、そのまま書いて下さいと言うのですが、言われた人はやれやれどうしたものかと思案顔。この会報は会員のコミュニケーションを図るためのもので、あまり堅苦しく考えずに、日頃思っている事、感じている事を、たまには筆をとって書いてみて欲しい。読まれた人から何か声が掛かるかもしれませんよ。という事で、皆さん原稿の方をよろしくお願いします。（西原 一誠 記）